

人を支える税

幌加内町立幌加内中学校 三年 森崎 優美子

ある日私は、道端で倒れているお爺さんを発見しました。血が出て動けないお爺さんを前に、私は何をしたらいいのかも分からず、パニック状態になってしまいました。近くの病院はやっていなかったため、人生で初めて一一九番に電話をしました。するとすぐに救急車がやってきて、救急救命隊の方々がお爺さんの手当てをしてくれました。その時、お爺さんだけでなく、私も救われたような気分になりました。

私は、実際にこのような経験をして、支払いをせずとも救急車を呼べることに感動しました。そこで、一回の出動にかかる費用を調べてみると、およそ四万五千円もかかることがわかりました。この額を払うことになったとしたら、誰もが簡単に救急車を呼ぶことは難しくなると思います。しかし、税で負担されていることにより、私たちはお金の不安を抱くことなく、命を第一に考えて呼ぶことができます。あの日出会ったお爺さんも、私も、税があることで救われたと言えるでしょう。私は、税があることのありがたみを感じました。

今までの私は、税がどこでどのように使われているのか分かっていませんでした。そもそも、なんのためにあるのかもわかりませんでした。税は子供の私には遠い存在だと思ひ、興味を持たなかったのが原因かもしれません。

しかし、意識して見るようになると、税が私の暮らしの多くを支えてくれていることに気がつきました。普段通う中学校、警察署や消防署、図書館も全て税で建てられています。私の町にはスキー場があり、土日は町の小中学生だと補助を受けることができ、無料で利用することができます。そのおかげで、スキー場に行きやすくなり、スキーが上手くなりました。

私が中学校で使っている教科書を見てみると、小さくこう書かれています。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

税金は、未来の日本を担う私たちを支えるために使われているものです。そのために私たちは、未来を支えるために何ができるかを考える必要があると思います。